

今日のトピック 中国のGDP成長率は2期ぶりにプラス転換 4-6月期は+3.2%、20年は3%を上回る成長を予想

ポイント1 4-6月期GDPは+3.2% 2期ぶりにプラス転換

- 中国国家统计局は16日、主要経済指標を発表しました。4-6月期の実質GDP成長率は前年同期比+3.2%と、市場予想（同+2.4%）を上回り、前期の▲6.8%から2期ぶりにプラス転換しました。中国経済は1-3月期に、四半期で統計を遡れる1992年以降で初めてマイナス成長に陥りましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の封じ込めにいち早く成功し、生産主導でプラス成長に戻りました。

ポイント2 生産はプラスが続く 投資や消費も回復傾向

- 6月の鉱工業生産は前年同月比+4.8%と、5月の同+4.4%から伸び率が拡大しました。3月以降生産活動が再開され、自動車、半導体などを中心に4月以降前年を上回っています。
- 6月の小売売上高は前年同月比▲1.8%と、5月の同▲2.8%から減少率が縮小しました。新型コロナの影響で、飲食業などで売上げが落ち込んでいる一方、インターネット販売は伸びています。
- 1~6月の固定資産投資は前年同期比▲3.1%と、1~5月の同▲6.3%から減少率が縮小しました。インフラや不動産への投資が回復に向かいました。

今後の展開 20年の中国経済は3%を上回る成長へ

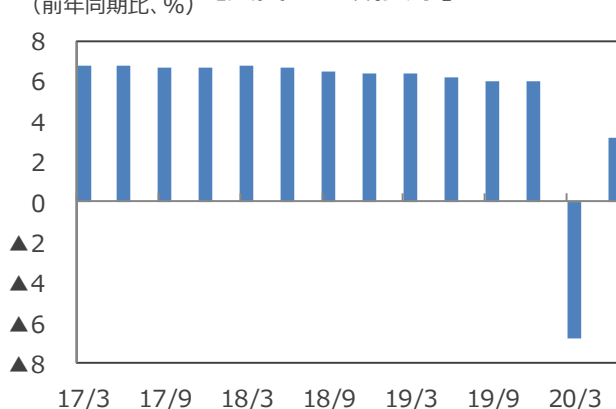
- 新型コロナの感染拡大の封じ込めに成功した中国は、他国に先駆けて経済活動を再開し、5月の全人代（全国人民代表大会）で積極的な財政出動の方針を決め、景気を下支えしてきました。その結果、4-6月期の実質GDPの水準は、季節調整ベースで、19年10-12月期のコロナショック前のレベルを上回りました。政府の景気刺激策を踏まえると、20年後半も中国経済は勢いを維持するとみられます。弊社は、20年の実質GDP成長率を+3.6%、21年を+8.3%と予想しています。

ここも
チェック!

2020年7月14日 運用者の視点：中国企業の『重複上場』
2020年7月 2日 アジア・トウグ 香港国家安定法の不動産市況への影響

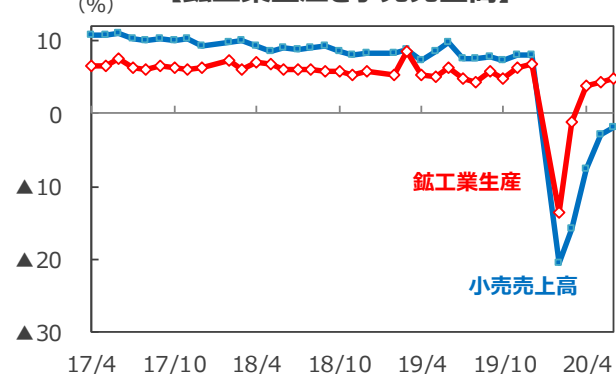
■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。

【実質GDP成長率】



(注) データは2017年1-3月期~2020年4-6月期。 (年/月期)
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

【鉱工業生産と小売売上高】



(注) データは2017年4月~2020年6月、前年同月比。 (年/月)
各年2月のデータは1~2月の年初来累計の前年同期比。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成